

ホクレンの営農情報誌



ap
hokuren
agriport

アグリポート

8-9月号

AUG.-SEP.
2016
VOL.02

特集

「働く」が変わる

ホクレン マーケット通信

**将来的にも重要な消費地
名古屋エリア**

Hokuren Forum

みんなの取り組み広場

地域のさまざまな情報をお届けします

昨年末のJ A北海道大会で掲げられた将来ビジョンは「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』です。実はこれ、原案の段階では「100万人と共に創る……」だったんです。ところが青年部から「どうせやるなら全道民550万人を巻き込むべきだ」という意見が出て、それを汲み取ってもらいました。これが大会で決議されたからには、我々も550万人のサポート一づくりの実現に向け、積極的に活動していかなくてはならないと意気込んでいます。

また、道青協が3年前に始めた農村ホームステイ事業も北海道教育委員会との連携が強化され、より拡大しつつあります。これは学校の先生に1泊2日で農作業体験をしてもらい、授業を通じて子どもたちに農業と食の大切さを伝えてもらう取り組みです。今年もすでに20件以上の申し込みが届いていきます。

あの人の VIEW POINT

未来を語ろう

北海道農協青年部協議会（J A道青協）
会長 **渡辺 基樹**



contents

特集

省力化・労働力確保が変える営農環境

「働く」が変わる

03 労働力確保の鍵は環境整備

05 農協出資の研修牧場で人材育成

07 隠れた労働力を掘り起こせ！

09 インタビュー

働き手を持続的に確保するためには？

11 ホクレン マーケット通信

将来的にも重要な消費地 名古屋エリア
海外駐在員ればーと シンガポール
米穀販売情勢

17 みんなの取り組み広場

地域のさまざまな情報をお届けします

19 品種・技術ここがポイント！

小麦縮萎縮病の発生について
農作業事故を防ぐために

23 情報 clip

作業を軽快にこなすアシストスーツ
第14回 ホクレン野菜類・花き品種
展示会（長沼研究農場公開日）

26 読者のみなさんからの声

今年度の道青協のスローガンは「Exciting Innovation」、夢のある農業へ！」、年間活動テーマは「未来に誇れる農業」です。全道12地区7234人の青年部員が対話を重ね、ひとつにまとまれば、大きな力になるはず。ホームページやフェイスブックでも情報を共有・発信しながら、同じ意識を持って同じ方向に進進していきたいと思っています。



1980年10月13日、京極町生まれ。北海道立農業大学校卒業。農業法人（有）M&T アグリステムの代表取締役社長を務め、両親・弟とともに馬鈴薯・小麦・大豆・小豆・にんじん・醸造用ぶどう・トマトなどを手がける。JA ようてい青年部所属。後志地区青協会長、道青協副会長を経て、今年4月にJA 道青協の会長に就任。（京極町の自宅小麦畑にて撮影）

特集：省力化・労働力確保が変える環境

「働く」が変わる

農業の現場では、少子高齢化や過疎化などにより、労働力の確保が難しくなっています。こうした厳しい状況をどう乗り切るか。多様な視点から探ってみました。

農業で働く意思

労働力確保の鍵は 環境整備

実態調査から
見えてきたこと

昨年、北海道農政部の委託により、農業・農村労働力確保対策事業で実態調査に取り組んだ一般社団法人北海道地域農業研究所の経電専任研究員に、リサーチ結果の概要を教えてくださいました。

農業雇用への就業意思

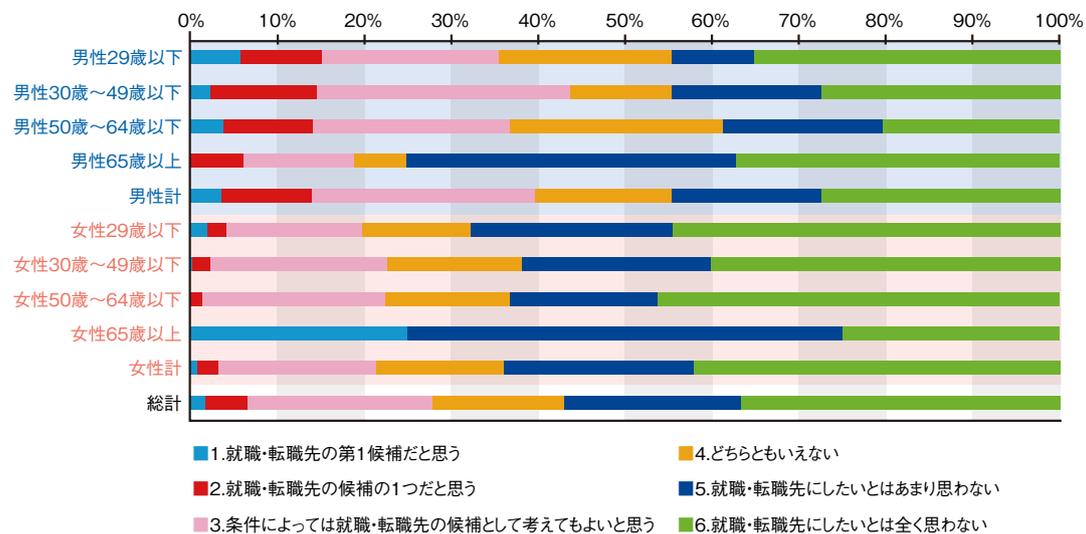
昨春秋、道内在住の求職者約1000人を対象に、インターネットでアンケート調査を行いました。農業に対しては「体力が必要な仕事」「汚れる作業がある」「定期的な休みがない」「拘束時間が長い」など、負のイメージを持つ人も少なくありませんでしたが、農業で働く意思を尋ねる設問では27・4%、およそ4人に1人が条件次第では農業雇用への就業意思があると答えました。希望の雇用形態別で見ると、正規雇用希望者の28%、パートタイム希望者の24・7%が、条件次第では農業雇用への就業意思があると答えています。

このうち農業法人などへの正規雇用を求める主な層は、30歳代の男性ならびに大学生であり、彼らは就職先に対して、休日、諸手当、定期昇給を含む安定的な収入などを求めています。

一方、パートなど非正規雇用を求めているのは女性と高齢男性で、こちらは定期的な休みと1日の拘束時間の短さ、通勤の容易さ、力作業や汚れる

一般求職者の農業雇用への就業意志

一般社団法人 北海道地域農業研究所によるWEB アンケートより



1 就職・転職先の第1候補だと思う (1.5%)、2 就職・転職先の候補の1つだと思う (5.2%)、3 条件によっては就職・転職先の候補として考えてもよいと思う (20.7%)。1～3までの合計27.4%に、ある程度農業雇用への就業意志があると考えられます。

「特集」 「働く」が変わる



一般社団法人
北海道地域農業研究所
研究部
經龜 諭 専任研究員

いでしょわか。

力を掘り起こすことが可能なのではないのでしょうか。

「社会に貢献できる」「やりがいがある」「生きものどふれあえる」「いろいろな年齢性別の人が共に働ける」など、良いイメージも持たれています。学生の中には農業にICT活用による将来性やベンチャー的な魅力を感じている人もいます。こうした点をアピールすれば、潜在的な労働力を掘り起こすことが可能なのではないのでしょうか。

姿勢が必要なのかもしれません。

農業は「社会に貢献できる」「やりがいがある」「生きものどふれあえる」「いろいろな年齢性別の人が共に働ける」など、良いイメージも持たれています。学生の中には農業にICT活用による将来性やベンチャー的な魅力を感じている人もいます。こうした点をアピールすれば、潜在的な労働力を掘り起こすことが可能なのではないのでしょうか。

受け入れの環境が鍵になる

就業活動中の学生が企業に定期昇給、定期的な休み、社会保険、労災などの就業条件を求めると同様、求職者は農業にも労働条件や雇用環境の充実を望んでいます。パートの希望者は子育てと両立できるように、3～4時間の短時間勤務や、臨機応変に休みがとれる体制づくりを求めています。働き手がいなくなげく前に、まず求職者の目線で働く現場を見直してみる姿勢が必要なのかもしれません。

作業でないことなどを求めています。

つまり、求職者が求めるこうした条件を整え、負のイメージを払拭できれば、労働力の確保につながる、といえるでしょう。



新得町

農協出資の研修 牧場で人材育成

ロボット導入で
生産力も強化

レリー社(オランダ)の餌寄せロボット。1日1回、朝に給餌すると、ロボットが自動的に牛舎内を走行して、餌を寄せてくれます。



「新得町の酪農畜産農家は助け合いの精神が強い」というJA新得町の太田眞弘組合長。株式会社シントクアユミルクの取締役社長も務める。

【 農業生産法人 株式会社シントクアユミルク 】

農協の主導で、研修牧場が誕生

今年4月、新得町に農協の出資による新しい牧場が誕生しました。最新の換気システムを備えた牛舎には、搾乳ロボットや餌寄せロボット、自動で除ふんするスクレーパーなどの設備を導入して省力化を実現。町内の生産基盤を維持・拡大しながら、あわせて研修生を受け入れ、地域が求める人材を育成していくのがねらいです。

J A新得町の組合長であり、この新牧場を経営する農業生産法人「株式会社シントクアユミルク」の取締役社長も務める太田眞弘組合長は、こう話します。

「新得町の酪農の特徴は、戸数が39戸と少なく、1戸当たりの経営規模が大きいことです。もし後継者不足などで戸数がさらに減ると、地域の維持がますます困難になります。そこで、将来を見据えて、生産量を維持しながら、研修機能を持つ牧場をつくろうという構想が生まれてきました」

事業化には農水省の平成26年補正予算「畜産競争力強化対策緊急整備事業(畜産クラスター事業)」を活用し、農協が中心になって新しい牧場を設立することになりました。

設立にあたっては農協だけではなく、町内の農業法人や運送会社など7社にも出資をお願いし、農業生産法人「株式会社シントクアユミルク」がで

レリー社（オランダ）の搾乳ロボットを7台導入し、24時間搾乳しています。搾乳時に多くのデータを収集できるため、牛の健康管理が容易。省力化と収益性向上を実現する選択肢の一つとして期待されています。



シントクアユミルクの北村一哉牧場長。もともと農協の職員ですが、牧場立ち上げにあたり牧場長に任命されました。牧場長以下、従業員3名、研修生2名の計6名でアユミルクを運営しています。

きました。

「酪農家が集まって新しい牧場をつくるのなら、牛を持ち寄ることができですが、ここは全くゼロからのスタート。牛もない、人もいない、畑もない。ないづくしで苦労しました。事業申請後は、もう後戻りはできないと必死でした」と太田組合長。

搾乳ロボットを導入したのは、搾乳のための拘束時間を短縮し、慢性的な人手不足に対応できる将来的な酪農生産スタイルの一つのモデルケースとして、地域の酪農家に紹介したいという思いからとのこと。こうしてシントクアユミルクは、生産力強化、担い手育成と確保、先端技術の実践と実証を目的に、地域支援型のモデル牧場としてスタートしたのです。

酪農関係で働く人材を育成

いまシントクアユミルクでは2名の研修生が酪農を学んでいます。一人は滋賀県出身の女性（25歳）で、新得町立のレディースファームスクールの卒業生。牛に関わる仕事がしたいと、アユミルクに就業しました。もう一人は地元男性（31歳）で、以前は町内の肉牛牧場に勤めていましたが、酪農での新規就農を目指して研修を志望しました。

しかし、北村一哉牧場長は「新規就農の担い手育成だけが目標ではない」と話します。



敷地内にはフリーストール牛舎2棟の他、哺育舎、育成舎、分娩舎があります。現在、飼養頭数は295頭（搾乳牛は180頭）。年内に420頭まで増やし、将来的には500頭の搾乳を目指しています。



JA新得町の渡辺 昭一 参事。「研修生が酪農関係の仕事に就き、町内に定着してくれるのが目標」と話す。

「町内には法人牧場もあるし、町営の育成牧場もある。コントラのオペレーター、ヘルパー、検定員と酪農関連の働き口はいくつもあるのです。ここをきつかけに何らかの仕事に就いて、地元に残ってもらえるような道筋をつくられたらいいですね」とのこと。

そのために北村牧場長は研修生の生活全般をサポート。町内での人間関係づくりにも心をくだいています。「牧草の収穫時に研修生をTMRセンターに派遣したりするのも、地域の皆さんに研修生の存在を知ってほしいから。研修生が早くコミュニケーションを溶け込めて定着できるように、地域ぐらみで支援したい」と話します。

また、今後は東京や大阪などの農業人フェアでシントクアユミルクの受け入

れ体制をアピールし、新たな研修生の獲得にも力を入れていく考えです。

さらに今年10月には、農協と町内の酪農家、温泉施設などが共同出資で設立した「十勝新得バイオガス株式会社」のバイオガスプラントが完成予定。完成後はアユミルクのふん尿も毎日運んでプラントで処理し、得られるエネルギーの売電や地元の温泉施設の熱原としての利用を計画しています。そして副産物の消化液は肥料として牧草地や畑でも活用する予定です。

農協が中心となり、多くの地元の皆さんの協力を得て、新しいチャレンジを続ける新得町。地域が一体となって向上していこうという未来志向の熱意が共有されています。

冬季の豊富な労働力を 農業就労へ結びつけるには

「後志にはニセコ、キロロ、ルスツと3つのリゾートがあり、冬場には1000人の日本人、1200人の外国人が働きに来ます。多くは独身の若者で春になると別の地域へ移ってしまう季節労働ですが、彼らに残ってもらいたい夏場も働いてもらえないか、という地域の要望が出発点です」

去年の秋からスタートした「しりべし『まち・ひと・しごと』マッチングプラン」について、こう説明してくれた後志総合振興局の本田晃地域政策課長。まずはリゾートの協力を得て、冬山のスタッフに「夏の就業希望」についてアンケートを実施。80人を超える人が夏季就業を希望したことから、一人一人の意向をヒアリングする「冬山ジョブ・マッチング・カフェ」を各リゾートで開催。希望する職種やエリアを個別に把握しました。

そのなかで農作業ヘルパーを希望した人を中心に声をかけ、3月には管内4農協と連携して「アグリスタッフフェア」をリゾートエリアで開催。農家との面談を仲介して、JAよういで13名の採用が決定しました。

彼らの住まいとして夏場は社員寮を提供してくれるなど、リゾート会社も強気にバックアップ。地域が一体となって労働力確保に取り組む体制

しりべし

「まち・ひと・しごと」マッチングプラン

写真左はアメリカ出身のアレックスさん（34歳）。英会話教室の講師経験があり会話には不自由しません。写真右がカナダ出身のトッドさん（30歳）。冬はニセコでスキーのインストラクターをしています。カナダとニセコを行ったり来たりして暮らすのが夢ということ。

後志エリア

隠れた労働力を
掘り起こせ！

地域の特徴を活かした
人材確保の取り組み

が整いつつあります。冬はスキーリゾート、夏は農業というライフスタイルで通年雇用が実現すれば、地域内での定住につながり、いずれ農業経営者として独立する可能性も広がります。

振興局を中心に、 J Aと民間企業が連携

農家側の求人を取りまとめたJ A ようてい地域振興課の浦口俊昭統括課長は「求人は商業や観光業などの時給と同程度か、それ以上になるように条件を付けて募りましたが、33農家で50人くらいの求人数が集まった」と話します。

4〜10月まで、なるべく長期で雇用してくれる農家を優先してマッチングしましたが、実際は「1〜2カ月で集中的に稼いで、そのお金で旅行に行きたい」という求職者も少なくなかつ



農業求人を紹介するアグリスタッフフェア。ひらふ地区で2日間行い、29名が参加。13名の採用が決まりました。マッチング率は34%。採用者のうち5名は外国人で、農作業ヘルパーを希望する外国人も多いことも分かりました。

たとか。また、近くに住まいが見つからなかったり、通勤手段がなかったりして諦めるケースもありました。「今年の冬は前回の反省を踏まえて、住まいの確保や交通手段の有無など農家側の求人情報を詳細に集めるつもり」といいます。

では、実際にマッチングプランで農作業ヘルパーの仕事に就いた方は、農業にどう向き合っているのでしょうか。蘭越町の近藤農園で働く2人の外国人、トッドさんとアレックスさんに話を聞きました。

カナダ出身のトッドさんはスキーのインストラクターで、日本人の女性と結婚し赤ちゃんが生まれたばかり。農場の近くの中古住宅を購入して「来年以降も夏はぜひここで働きたい」と話します。もうひとりアメリカ出身のアレックスさんも奥さんが日本人。これまで本州で英会話教室

の講師をしていましたが「マイペースで季節に合わせて変化のある、さまざまな仕事ができる農業が楽しい」と顔をほころばせます。いまはリゾート会社の寮で暮らしており「川でカヤックに挑戦してみたい」とニセコの夏を満喫しています。

後志総合振興局では今回のマッチングプランの改善点を踏まえた上で、来シーズンにはグローバルなマッチングコンシェルジュの配置を検討しているほか、J A ようていも独自で無料職業紹介事業の認可を取得して窓口を増やし、より力を入れていく方針です。地域に埋もれている潜在的な労働力を掘り起こし、求人側と結びつける新しい取り組みは、行政とJ A、民間企業の連携で大きな成果を結びつつあります。



「協力してくれたリゾート会社に感謝しています。冬と夏の通年雇用で就業の場としての後志に魅力を感じる人がもっと増えてくれれば」と話す、後志総合振興局の本田見地域政策課長。無料職業紹介事業所の認可を自ら取得するなど、マッチングプランの推進役を務めました。



蘭越町でトマトを生産する近藤一祝さん。「トッドとアレックス、ふたりとも農業は初めてらしいけど、気持ちよく働いてくれるから、たいした助かってる。外国人だから困ることなんてなんもないよ。うちの孫の運動会にも二人して応援に来てくれたんだ」と、すっかり打ち解けた様子です。



J A ようてい営業経済事業本部地域振興課の浦口俊昭統括課長（右）と同課の福田達裕さん（左）。マッチングプランの受け入れ農家のため、面接マニュアルや雇用契約書、就業規則などの見本をつくって配布。「受け入れ農家の心得」も作成して、きめ細かくサポートしました。

働き手を持続的に確保するためには？

雇用側と求職者のギャップを埋める努力を

農業の労働力不足、担い手不足に対して、私たちはどのように対処すべきなのでしょう。「地域連携経済学」「協同組合学」を専門に研究する小林国之北大大学院准教授に伺いました。

——労働力不足が深刻化している農村の現状を、どのようにお考えですか？

小林 労働力不足は農業だけではありません。若年の労働人口が減っている日本では、どの産業も人が足りない。とはいえ、今年4月の道内の求人状況をみると、農林業の賃金水準は事務職よりも高いんです。けれども農業の求職者は少なく、賃金が低いにもかかわらず事務職は倍率が高い。賃金を上げれば人が来るという状態ではないわけです。現状は外国人技能実習生に頼っている地域も多いですが、それも持続的ではありません。根本的に何かを変える必要がある。今後は労働力を使わないという方向で農業形態を変えていくのか、求職者のニーズに合わせた雇用環境に転換していくのか。いずれにせよ、変化が求められています。

——労働力確保について先生がご存知の優良事例はありますか？

小林 3年ほど前に調査させてもらった富良野では、市街地に住む主婦層にパートに来てもらう体制づくりを進めていました。子どもが熱を出したときは遠慮なく休んでもらったり、午前中の3時間だけなど細切れの時間でも働けるよう配慮したりし

て、ちょっと家計を助けたいという主婦層に働いてもらうのです。熟練が必要なメロン栽培でも短時間のパートさんが活躍していて、細かなノウハウが共有されていました。まさに近い地域じゃないと難しいかもしれませんが、コンビニのレジ打ちより農作業の方が楽しいという人は少なからずいるはずですよ。

——どのように人を集めているのでしょうか？

小林 ハローワークや求人誌で募集もするのですが、クチコミで友達を誘ってもらうのが一番多いようでした。最近では農業系や田園回帰系の雑誌が多く出ていますが、子育て中でパートをしようとしている人は、日々買い物や育児に追われて、そもそも雑誌を読まない。だから幼稚園のママ友などクチコミが有効なんですよね。

——労働力の定着に向けた工夫などありましたか？

小林 農協で斡旋しているのなら別でしょうけど、農家さんが相対でパートさんを雇っているところは、何時に休憩させてお茶を出してと、ものすごく気を使っていました。富良野のミニトマトの農家さんでは、昔からの出目のプレハブと、街場から来てくれ

るパートさんのプレハブを別にしていましたね。一緒にするとお互いに不満がくすぶるのかもしれない。

——農業は働く場として魅力がないのでしょうか？

小林 北大の学生が農村ホームステイで十勝の農家さんにお世話になったあと、こう話していました。彼は普段レンタルビデオ店でアルバイトをしているんですが「いつもはあと1時間でバイト代がいくらと思いつつ過ごしていたけれど、農業は畑のあそこまでカボチャを収穫したら今日の作業が終わり。仕事のモチベーションも達成感も全く違う」と。富良野のミニトマト農家で働いていた人も同様に「やった仕事が目に見える。こんな充実感はない」「天気がいいからハウスの中は暑いだろうなと想像するようになった」と言うんです。つまり農業にはほかの産業にはない魅力がある。ただ多くの人の日常とあまりにかけ離れているから、仕事として想像ができないだけなのかもしれません。

——では、雇用側は求人の際に何をアピールすればよいでしょうか？

小林 もっと具体的に作業内容や労働環境をイメージできるようにしてはどうでしょうか。「農業で働いてみま

せんか」という誘い文句では、何も分からなくて不安です。トイレや休憩室、送迎手段を具体的に見せたり、何時に出勤して、どんな作業をして、何時に帰って…と、家事や子育てと両立できるタイムスケジュールを紹介したり。雇用側と求人側のギャップを埋めていかないと、慣れない人を圃場には呼べないと思います。

また、労災などの社会保障を揃えていますよ、という提示も重要です。農家個人ではなく農協が後ろ盾になれば、求職者も安心できるでしょう。求職者が農業を職業選択の一つとして考えることができないのは、情報が少なすぎることも一因。農家サイドがちゃんと発信してこなかったという面も否めません。

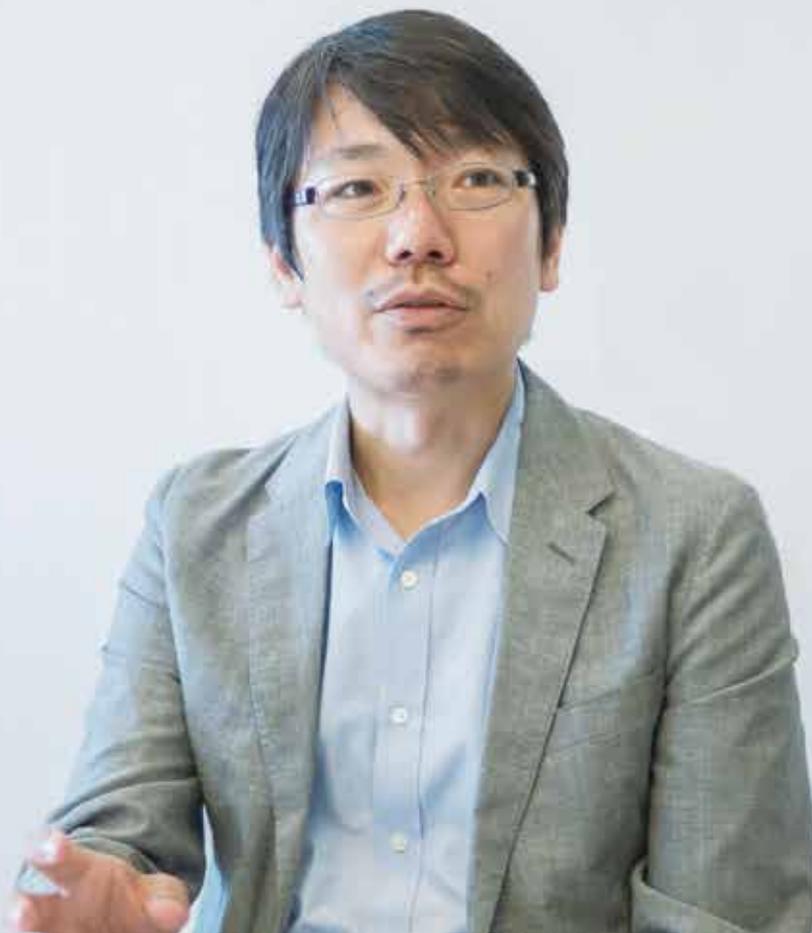
——今後、労働力の確保に向けて、地域でできることは何でしょう？

小林 ひとくりに労働力と考えると、通年雇用なのか、スポット的な雇用なのか、担い手育成なのか、それぞれ分けて考える必要があると思います。通年雇用で人件費に年200万円かかるのと、さらにハウスを増やさなくてはならず、結局、余計忙しくなると所得は変わらないという状態になります。人を雇って規模を拡大していく農業形態もあれば、経営規模を維持しながら地元の人にパートで手伝わ

“地域の労働力を循環させる”
仕組みが必要なんです。

てもらったり方もあるはずですよ。

働き手も通年雇用で200万円欲しい層と、60万円がいい層がいます。そして今60万の人もライフサイクルのどこかのタイミングで200万欲しくなるときがくるかもしれない。だから、パートならここ、通年働くなら今度はこちら、地域内で働き手を循環させる、地域の労働力をベースにした農業を考えていかないとならない。必要な時だけ人を確保しようという単発的な労働力を求めるのはもう限界かもしれません。



北海道大学大学院
農学研究院
小林 国之 准教授

2003年北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了。博士（農学）。日本学術振興会特別研究員、同大学大学院農学研究院特任助教、助教などを経て2016年4月から現職。主な著作に「農協と加工資本」（日本経済評論社）ほか。

From Market

ホクレン
マーケット
通信

ホクレンマーケット通信では、国内外の市場で起きている変化や動向を発信します。

将来的にも重要な消費地 名古屋エリア

今回は、ホクレン名古屋支店の取り組みについてご紹介します。



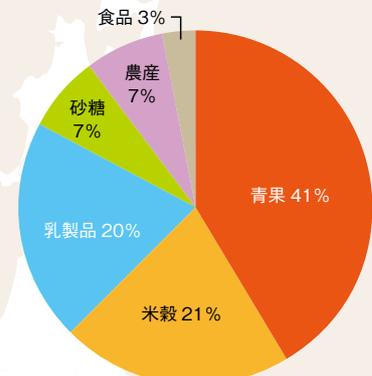
名古屋支店エリアの市場性

名古屋支店の管轄エリアは、愛知・岐阜・三重・静岡の東海4県と富山・石川・福井の北陸3県からなり、域内の人口は1,804万人で全国の14.2%を占めます（北海道の人口の3倍以上）。

当エリアは、主力産業の工業製品出荷額が全国の27%を占め、製造業が集中しているのが特徴です。昨年度は輸出中心に好調で、トヨタや三菱重工、コマツなど裾野が広い製造業により多くの雇用を生みだしています。

ホクレン名古屋支店は、昭和26年に開所し、今年で65年目を迎えます。村上支店長以下、7課で総勢35名の職員がおります。

●平成27年度取扱高実績：約436億円



[品目別内訳]

今後、日本国内の人口減少による消費力の低下は、食品の流通においても大きな課題です。しかし、当エリアの人口増減率は2035年推計で89.6%（全国平均88.6%）、65歳以上の人口割合が32.2%（全国平均33.4%）と全国平均より優位とみられます。

このため、当エリアは将来的にも食料の消費地としての重要度が増すと期待されています。

名古屋 topics

01 「外食」への割合が高く、特に喫茶代の割合が高い!

1世帯あたりの喫茶代（名古屋市）は全国1位。また、愛知県の喫茶店の数は全国2位。さぞかしコーヒーが好きなのかと思いきや、コーヒー消費量は、47都道府県中41位。あくまで喫茶店が好き?



名古屋の喫茶店の定番メニュー「小倉トースト」

02 名古屋人は大のあんこ好き。北海道産素材も大活躍!

喫茶店ではモーニングの定番メニューに「小倉トースト」があるほど、名古屋人は大のあんこ好きです。江戸時代末期から茶道が大流行し、抹茶を楽しむ習慣が広がり、長きにわたって和菓子を大切にしてきたためといわれています。北海道の小豆や砂糖も、昔から名古屋で愛され続けています。

営業の最前線で日々奮闘している
熱きホクレン職員をご紹介します。

Close-up

クローズアップ現場力

▶名古屋支店編

●今回の現場
コープ北陸事業連合 様



名古屋支店
食品課 長岡 啓泰

音更町出身で、実家は畑作農家（小麦・馬鈴薯・豆類等）。産地の情報をJAや製造工場はもちろん家族からも聴き取り、取引先にタイムリーにお届けできるよう心掛けています。

取引先のご紹介

- コープ北陸事業連合 -

「生活協同組合連合会コープ北陸事業連合」は、北陸三県（富山、石川、福井）の地域生協を会員とした連合会です。今年で創立 20 周年を迎えます。

組合員総数 353,898 人

総事業高 438 億円（2016 年度 3 月期）

ホクレン名古屋支店との取引経過

1996 年 コープ北陸事業連合 発足
（発足前より、各単協に「よつ葉牛乳」を供給）

1998 年 コープ北陸 PB「コープ十勝牛乳」の供給開始
（よつ葉十勝主管工場生産）
～その後、牛乳、バターなど乳製品の供給量拡大

2010 年代 冷凍食品の供給額が大幅増
2011 年度 約 36 百万円
2015 年度 約 56 百万円（1.5 倍 UP）
2015 年 右記「優秀提案賞」受賞



提案力こそ現場力！

- ホクレン冷凍いんげんの売上アップストーリー -

発想

コープ北陸事業連合の組合員の皆さんに、ホクレンの「北海道産すじなしいんげん」をもっと食べてもらいたい！と、営業担当の長岡職員は発想しました。

分析

「北陸エリアの世帯人数が全国平均より多いことから、家庭で使う一回の使用量も多いはず。現在供給中の市販用300g 品だけではなく、業務用の500g 品を新たに投入することで、”購入層の広がり”と”購入機会の増加”に繋がるのでは？」と考えました。

実践

冷凍コーンや枝豆の業務用規格も販売伸長しているデータも加え、共同購入（宅配）での売上拡大に向けたプレゼンテーションを実施し、見事その企画が採用されました。

成果

新たに業務用規格を導入した結果、ホクレンブランドの冷凍いんげんの売上が伸長。さらには、有効性の高い優秀な成功研究事例として、主要取引先会議全体会において「優秀提案賞」を受賞するという結果になりました。

いんげんの取扱金額（千円）



Message



生活協同組合連合会
コープ北陸事業連合
玄田 博史 本部長

北陸エリアは3 世代同居など1 世帯当たりの人数が多く、また当生協事業連合組合員の特徴として55 歳以上の組合員が半数おり「おいしさ」「健康」志向に加え「ゆとり」があります。生協宅配事業の強みである「ラストワンマイル[※]」に磨きをかけ、商品知識をもって組合員に寄り添っていきます。ホクレン名古屋支店からも、今まで以上に産地・商品の情報伝達と組合員の特徴にマッチした商品提案を期待しています。

※ラストワンマイルとは：もともとは通信業界用語で、通信業者と利用者をつなぐ最後の区間をあらわします。現在、流通業界においても生協宅配、アマゾンなどのネット通販が盛んになる中、事業者と消費者をつなぐ最後の区間が重要なポイントとなってきています。

column **mori** ★ repo



市場リサーチ課の森が東京からさまざまな情報を毎月お届けいたします。

販売推進部 市場リサーチ課
森 絵里子

DELISH KITCHEN

1分の料理動画に魅了され、
手作りに関心を持つ女性が増殖中！

仕事帰りの電車では、夕食の献立を考えるために決まってスマホを活用しています。最近よくチェックしているのが「Facebook」などで発信されている「DELISH KITCHEN（デリッシュキッチン）」という料理動画メディア。このメディアでは、1分程度の短い動画で様々なレシピが紹介されています。掲載されている動画は、見ているだけで「美味しそう！」と感じ、作る意欲が湧いてきます。また、コメント欄はユーザーとの交流が盛んで、とても丁寧な対応をされていることも魅力です。

今までの料理レシピサイトでは、検索に時間がかかりストレスを感じていました。しかし、このメディアは短い動画でレシピを知ることができます。そのため、現在では電車に乗っている間に献立をスムーズに決めることができ、とても助かっています。



▲菅原 千遥 編集長

このようなサービスをなぜ思いついたのか、「DELISH KITCHEN」の編集長の菅原千遥さんにお話を伺ってきました。菅原さんは料理研究家で、もともと菓子作りが専門です。彼女が動画に注目したのは、自分がお菓子作りをしている時に感じた違和感があったためだそうです。「さっくり混ぜる」の「さっくり」が分らなかつた・・・と笑いながら話されました。この経験から、作ってみたら美味しいという成功体験を動画で、分かりやすく提供することを徹底しているそうです。

短く鋭く直感に訴えるスタイルは、見事に女性の心をつかみました。ユーザー数は100万人を超えており、その8割が20から30代の女性で占められています。彼女達は料理動画をただ見るだけでなく、実際に料理を作ってくれます。

近年、家庭内調理が減り、仕事帰りにスーパーやコンビニで惣菜を買って帰るといった需要が年々高まってきています。一方で、「DELISH KITCHEN」の

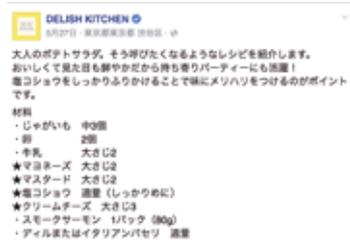
ユーザーのように、忙しい毎日の中でも素材から料理する若い世代が増えています。手作りの美味しさを実感している方が増えれば、北海道産食材への関心もますます高まるのではないかと期待しています。

このメディアを通して、世代や時代のニーズに合わせて情報の発信方法も変わることを学びました。私も丹精込めて作られた道産農畜産物を、全国の消費者に喜んで食べてもらうために、今後も情報収集を続けたいと強く思っています。



- Facebook ファン数 111 万人
 - Instagram フォロワー数 29 万人
- (7月13日時点)

▲ DELISH KITCHEN（デリッシュキッチン）は、公式のホームページはありませんが、YouTubeなどの動画サイトに投稿されています。またFacebookやInstagramを使っている方は、フォローするとタイムライン（新着トピックを伝える画面）上で確認できます。



▲ レシピの材料がシンプルなのも魅力的です。工程も簡単で、「これなら作れるかも！」と思えるレシピが豊富です。



▲シンガポールのポピュラーな外食メニュー。シンガポールでは食費の7割が外食。



▲シンガポールのスーパーで実施した売り場展開の様子。



▲シンガポールでの商品紹介の様子。(左が喜多主幹。伊藤忠シンガポール会社のオフィスにて)



Vol.1 シンガポール

輸出拡大に向けて奮闘する毎日です。

ホクレンでは道産農畜産物の更なる輸出拡大を目指し、平成27年7月からシンガポール・台湾に駐在員を配置しました(伊藤忠商事(株)の現地法人に所向)。主な活動は、各拠点を中心にアジア諸国でのマーケット調査や現地での商談、そして新規開拓です。ホクレンは平成31年に農畜産物の輸出額を100億円にする目標を掲げています。

そこで本誌では、毎号「海外駐在員れぽーと」として、現地の商習慣や文化の違い、苦労話も交え皆さんにお伝えしようと思います。第一回は、伊藤忠シンガポール会社の喜多智宏がレポートします。

昨年7月から始まったこちらでの生活にもようやく慣れてきましたが、年間通じて30℃以上の気温と世界1・2を争うほどの物価高に耐えながらの毎日です。家族とともにシンガポール生活を送っていますが、移住後初めての買い物では、あまりの物価の高さに妻は商品を手にとることが出来ず、何も買わずに帰宅した記憶が鮮明に残っています。当地居住者より「スーパーでは値札を見ないで買い物」と教わりました。私からの最初のレポートとして当地

の食習慣や本道農畜産物のイメージをお伝えします。

まず、東南アジア諸国と同様、シンガポールも外食中心の文化です。共働き世帯が非常に多いことが要因で食費のほぼ7割が外食とのこと。メニューは高温多湿のため、生ものを食べる習慣はほとんどなく、炒め物・揚げ物が中心で味付けが濃いのが特徴です。またローカルの外食店では、食べ残しを持ち帰るのが一般的であるのも特徴のひとつです。

さて、日々奮闘している道産農畜産物ですが、本道を訪れる旅行者は多く「北海道」の認知度は非常に高い一方、残念ながら食のイメージは「海産物(カニ・ほたて等)」「ラーメン」「お菓子」が強いのが現状です。そのようななかでも、4月から北海道米や加工品の輸出がスタートし、当地での定番販売が始まりました。おかげさまで販売は好調で新たな商品も検討しています。まだまだ認知度は低いもの、しっかりと足場を固め販売拡大に取り組みます。慣れない現地での活動ですが、今後のレポートにご期待ください。

(喜多 智宏 記 平成13年入会)

次回は台湾の後藤がレポートします。



変化するお米の需要を的確につかみ消費を拡大 米穀販売情勢

米生産者の所得拡大に向けた取り組み

米生産者の所得向上に向けて

「日本一の米どころ」を目指して11万ヘクタールに及ぶ水田を維持・発展させていくためには、栽培技術の向上による収量の増加や品質を高める取り組みだけでなく、将来へ向けてしっかりと再生産できる価格で販売していくことが重要です。

北海道では早くから品種開発や品位仕分に取り組み、用途に応じた品種・品位のお米を安定的に供給して実需者との強い絆を築き、販売環境に左右されにくい需要の確保を図ってきました。

今回は、北海道で生産されるさまざまなお米の特徴を生かし、用途に応じたきめ細やかな販売方法で「美味しい北海道米」を広げる取り組みをレポートします。

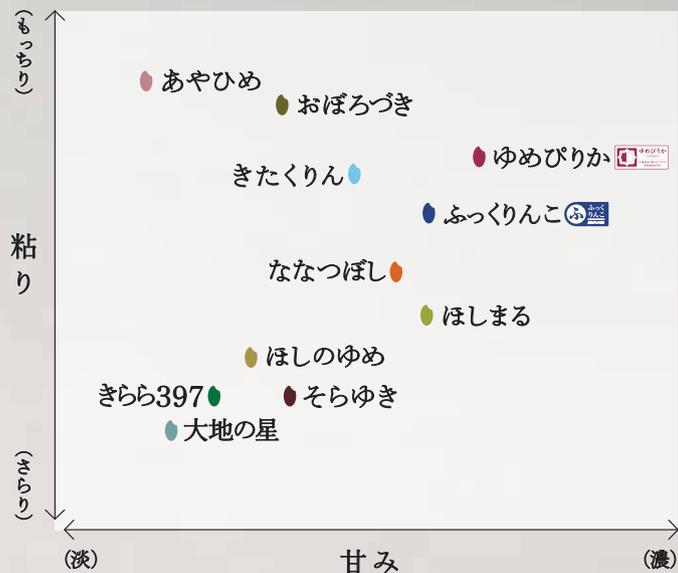
北海道で日常の美味しいは特別な美味しさ

「北海道内のセブン・イレブン943店舗※1で販売されるおにぎりは、全て北海道米で作られています。北海道の人にとって日常の美味しいおにぎりは、関東の人にとっては特別な美味しさのおにぎりです。」と語る埼玉県出身の齋藤曜介MD※2（株式会社セブン・イレブン・ジャパン北日本M

※1：平成28年6月末現在の店舗数。

北海道米（うるち米）の食味マップ

ホクレン農業総合研究所調べ



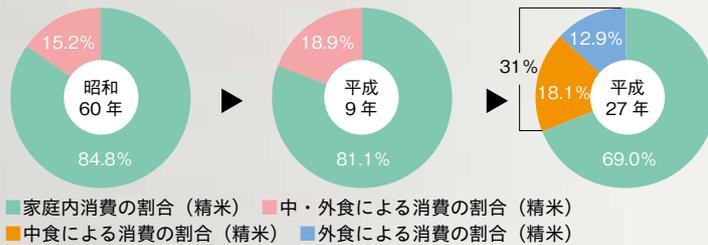
毎日の主食となるお米。一口にお米といっても、濃い甘みや強い粘りがおいしいときもあれば、あっさりした味わいや歯ごたえのあるものが、しっとりくるときもある。そんなお米の奥深さも含めて市場に向けて提案をしています。

中食・外食事業者などの 米の仕入れなどの動向

食の簡便化志向の強まりなどで、お米を購入し家庭で炊飯する割合が年々低下する一方、主食用米需要量の約3割を中食・外食などが占め拡大傾向にあります。

出典：「米に関するマンスリーレポート」（平成28年7月号）（農林水産省）（<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>）における「米の1人1カ月当り消費量」から加工して作成。

米の消費における家庭内及び中・外食の占める割合



株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 商品本部
北日本MD部 北海道地区 マーチャンダイザー 齋藤 曜介氏 (右)
ホクレン 道央支店 パールライス実需販売課 係長 齊藤 稔 (左)

D部)。ホクレンパールライス部では、需要の伸びが期待できる業務用ユーザーへの販売を強化しており、同社への原料米の供給は洞爺湖サミット開催後の平成20年から北海道米に切り替わり今年で8年目になります。

このおにぎりに関連して、同社では7月末から北海道限定のテレビCMを放映し、キャンペーンを展開する予定。北海道米を100%使用したおにぎりを全道のお客様に認識してもらい、全国チェーンでありながらも地



変わるお米の消費への対応

ホクレン 米穀部 主食課
課長 南 章也

お米の消費は年々減少し、家庭用から業務用に少しずつシフトしています。業務用の中でもコンビニエンスストア向けは年々伸張しており、今後の北海道米にとって重要なターゲットです。均質で大ロットなお米の安定供給が求められるため、大型集出荷施設を整え、仕分けを徹底し、ブランド力を高めた北海道米の強みが大いに発揮できます。

「ゆめぴりか」を核とした北海道米のブランド戦略により、市販用はもちろんのこと、業務用のなかでもより安定的に有利販売が可能なユーザーに対しての供給を拡大することにより、生産者の所得の向上につなげていきたいと思えます。

元のコンビニとして地産地消の取り組みをさらにアピールしていくとのこと。

また、同社では日本穀物検定協会の平成27年産食味ランキングで特Aランクを獲得した「ゆめぴりか」「ふっくらりんこ」「ななつぼし」の3品種それぞれの特徴を生かして、おにぎりや弁当類用として用途別に使い分けて

※2：マーチャンダイザーの略。特定の商品を生産から販売まで一貫して担当します。

「品位が安定したお米を生産されている北海道の農家の方には感謝しています」と話す齋藤MD。北海道米の評価が定着し、業務用中食市場の中核であるコンビニエンスストアから産地への期待は着実に高まっています。



report from 岩見沢支所

ドローンによる 豆つぶ剤散布の検討

ドローンは、産業用ヘリコプターよりも安価で小回りがきくため、農薬散布において有用ではないかと期待されています。一方で、ドリフトの可能性がある、農薬積載容量が小さいといった課題があります。そんな中、空知管内では北農研や普及センターなどと協力して、ドローンによる豆つぶ剤の散布に関する検討が始まっています。豆つぶ剤を利用することで、ドローンで農薬を散布する際の課題の

解決につながるのではないかと考えたのです。6月には現地圃場にて、水田除草剤散布の実演会を実施。時間あたりの散布量や、散布幅などを確認しました。また当日は、早朝にも関わらず多くの生産者が見学に訪れ、ドローンによる農薬散布への関心の高さがうかがえました。今後もドローンによる農薬散布の普及可能性に向けて、さらなる検討を進めていく予定です。



実演会には多くの人が見学に訪れ、ドローンに注目していました。



実際に豆つぶ剤を散布するデモンストレーションを実施。



豆つぶ剤は、主に水稻の除草剤などに用いられています。水面に浮いて大きく拡散することや、通常の粒剤より大粒であることが特徴です。

ドローン使用に関する注意事項 ドローンはルールを守った使用を！

重量 200g 以上のすべてのドローンに関して

●許可が必要となる空域がある



空港周辺



人口密集地区



150m 以上の上空

●許可が必要となる飛ばし方がある



夜間飛行



目視外飛行



人や物から30m
以内での飛行



イベント上
空での飛行



危険物輸送



物件落下

農薬散布に関して



●農薬を散布する場合は、必ず航空法の許可や承認が必要。

●農薬取締法に関連した手続きも必要。

その他ドローンに関する規則についての詳細は、国土交通省および農林水産省のホームページをご確認ください。

国土交通省 http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html

農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/boujyo/120507_heri_mujin.html

report from 旭川・岩見沢支所

もぎたて市講習会



Aコープチェーン・北海道では、「もぎたて市」と「JA直売所」の出荷生産者の収量・品質の向上と売り上げアップを目的に、栽培技術講習会の開催に取り組んでいます。
今年度は道内4カ所で各2回（夏・



現地ハウスでの講習の様子。

冬）計画されており、6月下旬、深川市で上川・空知管内の出荷生産者を主な対象に1回目の講習会が開催されました。
今回は野菜類の病害をテーマに、ホクレン野菜果実花き課より被害症状や原因、防除対策の種類や方法、品目ごとの主要な病害が説明されました。また合わせて「もぎたて市」の売れ筋品目や相場推移の他、売り場活性化への商品展示方法なども紹介されました。

続いて、市内の生産者ほ場（ハウス）で実際の作物を見ながらの現地講習も行われ、各参加者から普段の栽培に関わる質問が多く出された他、参加者同士の情報交換が行われました。

report from 稚内支所

草地更新における
大麦同伴栽培の実証試験

草地植生改善の取り組みが全道的に広まっていますが、せっかく草地更新しても雑草がうまく抑制できていない事例が多く見られ、課題となっています。

また、春期に草地更新した場合は、雑草の抑制が難しいこと、更新年の粗飼料不足等に課題があります。

そこで、初期生育に優れ登熟が早く短期間で収穫でき、雑草を抑制する効果と、更新年の収量確保が期待できることから、大麦と牧草を同伴栽培（同時播種）することが検討されています。

稚内支所では、宗谷管内における有効性や経済性を確認するため大麦とオーチャード・ペレニアルライグラスとの同伴栽培の実証を、今年度から始めました。

今後、植生・収量・粗飼料分析の各調査を行い、宗谷管内での普及に向けた検討を行う予定となっています。



播種 6 週間後の大麦同伴栽培の圃場。



播種 4 週間後の発芽個体数調査。

小麦縞萎縮病の発生について

ホクレン | 農業総合研究所 | 営農技術課

POINT!

小麦の播種期が近づいてきました。
縞萎縮病の発生に気をつけましょう。

縞萎縮病の発生について

春先、雪が融けると小麦畑が一斉に緑に色づき始めますが、その中に写真①、②のような畑の一部、または全体が生育不良な畑をみかけないでしょうか？

営農技術課で遺伝子診断を行った結果、このような畑の多くは縞萎縮病の感染が原因であることがわかりました。雪腐病や湿害と見間違えられま



① 縞萎縮病の発生状況（遠方は健全）[平成 27 年 4 月撮影]



健全株（左）と発病株（右）

すが、縞萎縮病の場合は、小麦は枯死することは少なく、次第に生育が回復します。発病畑では、小麦の分げつが抑制され、穂長が短くなり、粒重も低下し、減収になります。

縞萎縮病は、平成3年に恵庭市、千歳市および長沼町で初めて発生が確認されました。その後、次第に発生地域が拡大し、平成25年には51の市町村に発生が確認されています（図③）。今では道内の小麦栽培地



② 縞萎縮病の発生状況 [平成 27 年 4 月撮影]



③ 縞萎縮病の発生が確認された市町村（道総研の調査より）

帯のほぼ全域に分布していると考えられます。

病原ウイルスの感染と発病について

縞萎縮病は、ポリミキサ・グラミニスという原生動物によってうつされるウイルス病です。ポリミキサは、耐久性の極めて強い休眠胞子（*1）（写真④）を形成し、土中で数年間生存できます。この休眠胞子から放出された遊走子（*2）が小麦の根に感染し、遊走子による感染を繰り返します。小麦の生育が進むと、根には膨大な数の休眠胞子が形成されます。根が腐敗すると、休眠胞子が土壌中に放出されて分散し、次作の感染源になります。（図⑤）

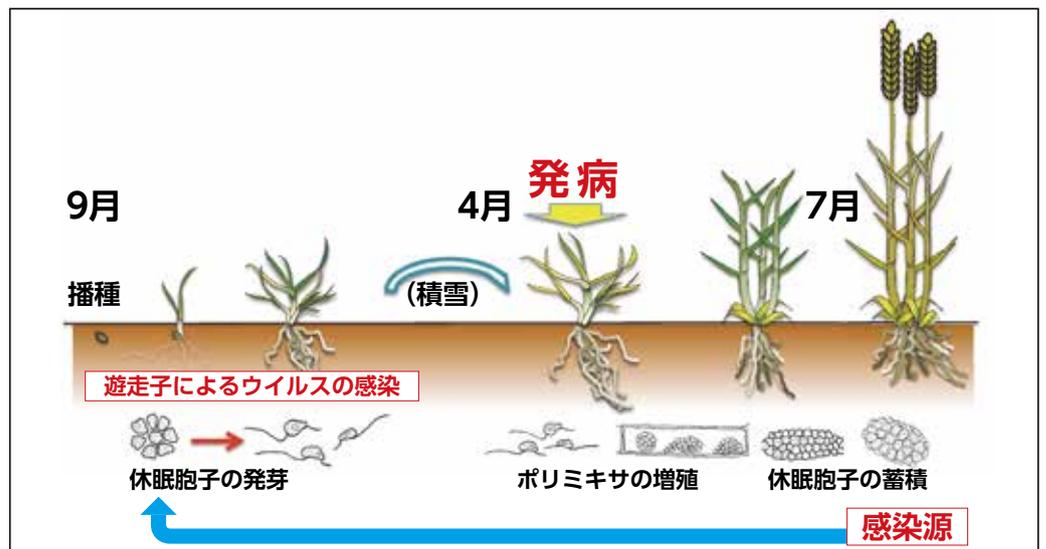
当課では、昨年から今年の春までのウイルスの感染と発病実態を詳しく調べたところ、根雪前にすでに小麦の根からは高頻度でウイルスが検出され、一部地上部まで移行していることがわかりました。本病の典型的な縞萎縮症状は、4月下旬から5月になって現れることから、これまで雪解け後から4月の気象条件が発病に影響するのではと考えられていましたが、当課で開発した遺伝子診断法により、秋期の感染の程度が、翌年春の発病に影響していることを初めて明らかにしました。得られた結果から、（図⑤）に示すような縞萎縮病の生活環を提案しています。



④小麦の根（細根）にみられるポリミキサの休眠胞子（ワク内は拡大図）

防除対策と今後の課題

汚染畑にしないこと、感染源を増加させないことが重要です。そのためには、連作を避け、適切な輪作を行うことが大切です。すでに過去に発病した畑やその可能性のある畑では、早播きを避けること、圃場の排水をよくすることなど、大切な留意点です。抵抗性品種「ゆめちから」の栽培が推奨されています。しかし、「きたほなみ」など感受性品種の栽培をせざるを得ない地域もあり、汚染程度を減らし、被害軽減を目指した防除対策については、さらに検討する必要があります。



⑤縞萎縮病の生活環

（*1）休眠胞子：宿主が弱ってくると生存のためにできる胞子。厚い膜におおわれ、耐久性が強く、不適切な条件にも耐える。乾燥状態で10年以上も生存できる。

（*2）遊走子：べん毛をもち、運動性のある胞子。べん毛により水中を移動し、根に到達するとべん毛がとれて、宿主の細胞内に侵入する。数時間から1日程度しか生存できない。

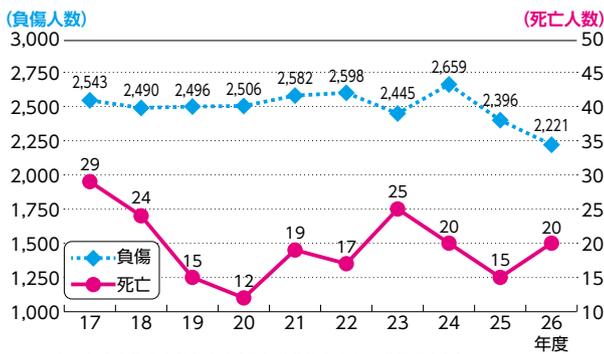
農作業事故を防ぐために

ホクレン | 農機燃料自動車部 | 農業機械課

POINT!

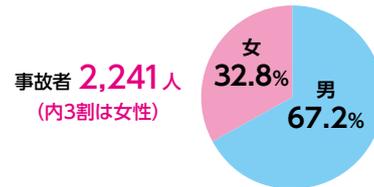
「事故につながる危険がごく身近にある」
「自分が危険を伴う作業をしている」
その自覚が大切です。

■年度別事故発生状況の推移(死亡・負傷)
[平成17年度～平成26年度=10年間]



平成26年度農作業事故報告書(北海道農作業安全運動推進本部)より

■農作業事故者の男女の割合[平成26年度]



平成26年度農作業事故報告書(北海道農作業安全運動推進本部)より

農作業事故の状況

農作業事故は他人事ではありませんが、北海道内では毎年20名前後もの農業者が農作業事故で亡くなられています。負傷事故にいたっては平成26年度でも2200件以上発生しています。発生件数は過去から変わらなないように見えますが、農業就業人口が減っていることから、発生割合は増加しています。けがで農作業ができなくなり、作付規模縮小や離農になってしまうケースも多く見られます。また、事故の3割は女性で、家族を含めた安全対策が求められています。

なぜ農作業事故は減らないのか？

農作業は作業機やほ場、天候等、状況もさまざま、的を射た対策が難しい面があります。農作業に潜む危険を事故事例から考えてみましょう。

農作業事故例と原因

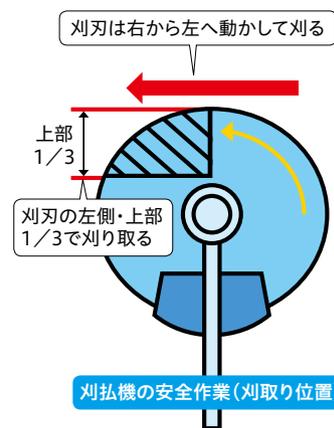
【事故例①】刈払機の刈刃で左足を切った。(50代男性)

背負式の刈払機で水田畔の草刈作業中、脇の土盛りに刈刃が当たった瞬間、キックバックを起し、左足小指関節の骨折と、刈刃により深い傷を負った。

原因 「基本操作の誤り」「服装(安

全靴を履いてなかった)」「刈刃カバー未装着」

キックバックの危険を減らす「右から左へ刈る」作業方法を知らなかった。安全靴を履いてなかった。草が詰まるので刈刃カバーを外していた。慣れた作業で油断していた。



【事故例②】オニオンハーベスターのタッピングローラーに巻き込まれた。(40代男性)

収穫作業中、タッピングローラーに詰まった雑草を、右手で取ろうとして巻き込まれ、右手薬指第一関節切断の傷を負った。

原因 「エンジンを掛けたまま」「服装(革手袋)」

機械を止めずに雑草を取り除こうとした。普段は(直接手で触らず)木の棒で突いて取り除いていたが手が出してしまった。革手袋をはいていた(巻き込まれる恐れがある作業では手袋は着用しない)。

【事故例③】 PTO駆動軸に衣服が巻き付いた。(30代男性)
 でん粉原料用馬鈴しょ収穫中、異音がしたのでトラクターを停止（PTOは切らず）、拾い上げコンベアに草が詰まっていたため取り除こうと、しゃがんで左手を伸ばしたところ駆動軸（PTO）の剥き出し部分に着用していたパーカーの紐が巻き付き、あつという間に引き寄せられ首が締まった状態になった。服を引きちぎって脱ぎ、間髪で脱出したが、頸椎を捻挫、顔面打撲、首・胸部擦過傷を負った。

原因 「PTOを廻した状態」「焦り」「不適切な服装」「PTOカバー欠損」
 PTOクラッチを切らなかつた。作業に適さない服装であった。やや急



いで作業していた。PTOカバーが剥き出しになっていた。

農作業事故防止のために

事例から、①常に農作業に適した服装（安全靴の着用、ダブついた袖や裾は危険など）や、②機械の点検・整備・清掃を行う場合は必ずエンジンやPTOを切るこの大切さがわかります。他にも人的要因として、③操作ミス、④基本操作・手順を守



●農作業事故防止のための「農作業安全研修会」を行っております。ホクレン各支所営農支援室・農業機械担当課までお問い合わせください。



らない、⑤焦り、⑥不注意、⑦共同作業の連携不徹底、などがあり事故が起きる際には概ね複数の要因が重なっています。

事故を防ぐため、単なる「気を付けましょう!」は対策になりません。人は必ずミスするものです。自分では「当たり前」と思っている作業方法、機械、道具、環境などに埋もれた「危険」や「問題点」を見つけ、ミスしても大事に至らないよう改善していきましょう。

まずは、「事故につながる危険がごく身近にあること」、「自分が危険を伴う作業をしていること」を自覚し、ヒヤリ・ハット体験は必ず家族や仲間へ伝え、全員で対策を考えることが大切です。繁忙期に向け農作業事故防止に努めましょう。

（農業機械課 馬淵彰司）

S

mart agri

作業を軽快にこなすアシストスーツ

タスカル

棒状のアシスト材の復元力で腰の負担を軽減

タスカルは、背中部分に棒状のアシスト材があります。このアシスト材の復元力が上半身を持ち上げる方向に作用するため、前かがみで作業を行う時の腰の負担を軽減するとされています。

このタスカルの、株式会社道央ファームにて、子牛にミルクを与える作業に使用してもらいました。実際に使用した方からは、「腰が支えられていると感じた。畑などで腰を曲げて重たいものを持つような作業にも、使用できるのではないか」との声が聞かれました。



ラクニエ

特殊なゴムの力が腰を支える筋肉をサポート

ラクニエは背面にある特殊なゴムの縮む力が腰を支える筋肉をサポートし、前かがみで作業を行う時の腰の負担を軽減します。

ホクレン長沼研究農場では、収穫したにんじんのコンテナ運び、ハウスの支柱立て、肥料袋運びといった作業で、ラクニエを使用しました。作業を実施した方からは、「重いものを運ぶなど、前傾姿勢になる作業を続けたときに腰が楽だった」また、「刈払機を使うときのような、中腰が続く作業でも効果があると感じた」などの意見が得られました。



お問い合わせ：タスカル・ラクニエに関するお問い合わせは、農協資材店舗までお願いします。

パワーアシストスーツ展示

さまざまなパワースーツに労力軽減の期待

7月2日に岩見沢で実施された中古農機展で、パワーアシストスーツの展示および装着体験が実施されました。今回展示されたのは、アクティブリンクのAWN-03とニッカリのLIBEROの2種類。これらはバッテリー式で、モーターの働きにより腰への負担を軽減します。

今回紹介したもの以外にも、さまざまなものが登場し始めているアシストスーツ。今後のさらなる発展に、期待が高まります。



ニッカリのLIBERO



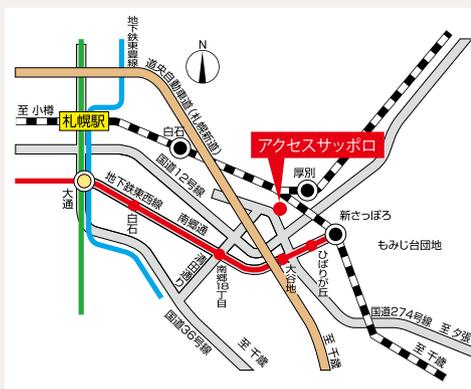
アクティブリンクのAWN-03

11/30 (水)・12/1 (木)

北海道スマート農業 フェア開催

担い手の不足や高齢化が急速に進む中、ロボット技術やICTを活用したさまざまな製品が世に出ています。

道を中心とした実行委員会にホクレンも参画し、幅広い先端技術を一堂に集め、生産者をはじめ全道の関係者が直接見て触って確認できる「北海道スマート農業フェア」を11月30日(水)・12月1日(木)の両日にわたって開催いたします。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



- 会場：札幌流通総合会館（アクセスサッポロ）〒003-0030
札幌市白石区流通センター4丁目3番55号
- アクセス
地下鉄東西線「大谷地駅」から車で3分。徒歩15分
JR「新さっぽろ駅」から車で7分
新千歳空港から
バスで「大谷地バスターミナル」下車（35分）
タクシーで3分
JR快速エアポート（15分間隔で運行）「新さっぽろ駅」下車（快速27分）タクシーで7分。
- 駐車場 1100 台完備

●展示内容：屋内・屋外会場にて、GPS ガイダンス、自動操舵、アシストスーツ、生産管理システムなど企業、大学、研究機関の展示や技術セミナーを開催予定。

「スマート農業」に関するアンケートにお答えいただくと抽選で40名様にJCBギフト券をプレゼント

農業において担い手不足、労働力不足が課題の中で、ロボット技術やICTを活用したスマート農業が期待されております。ホクレンでも、スマート農業に関して情報収集発信を行ってまいります。つきましては、読者様のスマート農業に関して率直なご意見をいただきたく、アンケートにご協力をお願いいたします。（締め切り日：9月16日（金））



携帯・スマホの方は
こちらからお答え
いただけます。

アンケートはこちらから：<https://jp.surveymonkey.com/r/77CJSP2>

このアンケートにご協力いただいた方から、抽選でJCBギフト券(1,000円)を40名様にプレゼントいたします。

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

E vent

これから開催されるイベントをご紹介します。

9/2 (金)

第14回 ホクレン 野菜類・花き品種展示会 (長沼研究農場公開日)

ホクレン農業総合研究所では、野菜類・花きの品種開発ならびに品種選定を行っています。本展示会では、**新品種や注目品種**などを紹介します。また他に、研究所各課の業務を紹介する**パネル展示**、当研究所で開発された品種などの**展示・試食**、**GPSトラクターの実演**も予定しております。

皆さまのご来場、心よりお待ちしております。

日時：平成28年9月2日(金)

13:00～16:00

(15:30受付終了)

会場：ホクレン農業総合研究所

長沼研究農場

夕張郡長沼町東9線南2



お申し込み方法

- ①ご来場を希望の方はお電話にてお申し込みください。
 - ②受付後、申し込み用紙を送付いたしますので、ご記入いただき、ご返送ください。
- お申し込み先
Tel.0123-88-1990
担当：芳賀、田畑、田中



写真は昨年度のホクレン野菜類・花き品種展示会の様子。

主な展示品目

品目	作物	主な展示品種・見どころ
野菜類	玉ねぎ	ホクレンオリジナル品種「早次郎」をはじめ、青果用・加工用の各品種を展示
	人参	加工用7品種、青果用13品種を中心に変わりダネも展示
	スイートコーン	イエロー、バイカラー、ホワイト、加工用の各品種を一斉展示
	だいこん	夏播き向けや秋播き向けの品種や赤だいこん、西洋野菜も展示
	ブロッコリー	「スターラウンド」や耐暑性の高い品種、スティックタイプ品種などを展示
	キャベツ	サワー系「佐和姫」・ボール系「ひめみつ」など多数展示
	かぼちゃ	道内の代表的な品種のほか、変わりダネ品種も展示
	アスパラガス	露地春どり向けの道内慣行品種から新規有望品種まで多数展示
	トマト	ミニトマトを中心に良食味や珍しい色のものなど合計30品種を展示
	その他	ズッキーニ11品種、えだまめ10品種を展示
花き	トルコギキョウ	種苗メーカー8社、合計88品種を展示、白色八重品種の比較展示も
	アスター	種苗メーカー4社、合計12品種を展示
	スターチス	「蒼雲」などホクレンオリジナル4品種を道内主要品種と比較展示
その他	プラグ苗	トマトやメロンなどの自根苗・接木苗、スターチス苗など19種を展示
	施設園芸用資材	農作業省力化資材・遮熱資材・暖房資材などの展示と新商品のご案内
	緑肥作物	夏播きに適した緑肥について、えん麦野生種や景観緑肥などを展示

※開催日以外でも随時視察受け入れをしております。お問い合わせください。

創刊号では皆さんからたくさんの方が寄せられました。このページでは毎号「読者の声」として掲載いたします。

- ホクレン大収穫祭（写真）をみるだけでも居ながらにしてその大盛況ぶりがかげえます。こういうページを通して伝えられると本誌の魅力が満載になりそう。期待しています。（日高町・女性）
- 北海道こめ油のことを初めて知りました。次回も楽しみにしています。（伊達市・女性）
- 釧路支所の一週間草刈り運動はとても興味深いです。全道的にも展開してほしい取り組みだと思います。（日高町・女性）
- みんなの取り組み広場は今後も取り上げてほしいです。地域の色々な情報を知りたいです。（伊達市・女性）
- グッズ商品、アイデアいっぱいですね。夫が首の日焼けが痛い毎日悩んでいます。男性用の日焼け防止グッズがあれば紹介ください。（岩見沢市・女性）
- やる気の出る作業着について（今月号の作業着素敵です。）取り上げてください。（日高町・女性）
- 旬の野菜のおいしい食べ方を生産者の方に聞いて載せてほしい。（江別市・男性）
- 搾乳システム改善事業でミルクの真空ラインを太くし、真空タンクも大きくした結果突発的な乳房炎が激減バルクに入れる牛乳が増えた。（厚岸町・男性）
- 野菜を使ったスイーツ等レシピが載るのは楽しみも興味も増すと思います。ちょっとした（頭休めに）クイズ・ゲーム・パズル等あれば楽しみです。（長沼町・女性）
- こういった情報誌は作成難しいとおもいますが、非常に良い取組だと思います。継続に期待します。（名寄市・男性）
- 写真・絵がうつくしく読みやすい。忙しい時も見やすいです。次号も期待しております。（余市町・女性）
- 「道産子実とうもろこしによる豚肉づくり」を読んで。道産の飼料を食べ道内で育てた豚肉を食べる、これこそ安心安全で皆が願っていることだと思います。（せたな町・女性）
- 写真がたくさんあり、見出しも大きくとても見やすいです。子供も興味を持ってくれます。牛の話ももう少しほしいまーす！（岩見沢市・女性）
- ドローンなどの活用法や GPS などの今後の活用法、新品種などの情報を取り上げて。（中札内村・男性）
- 息子が就農し始めたばかりなので酪農関係の情報（技術的なことを含め）を多く取り入れてほしい。（枝幸町・女性）
- ホクレン内誌の内容をより充実して合併してもよいのでは？別冊にする必要は。（北いしかり・男性）
- 広報「ほくれん」と一部内容が似ている。生産者向けの技術情報を！（ふらの・男性）
- 創刊号 興味深く拝見しました。縦書きと横書きのレイアウトが見づらいページがありました。（黒松内町・女性）
- 頑張っている農業女性をクローズアップしてほしい！（清水町・女性）
- ページをめくると（おお〜びっくり）新しい内容・工夫が感じられる記事。（豊富町・男性）

●編集部より

編集部では、さまざまなご意見、ご要望、厳しいご指摘も含め誌面に反映させていただきたいと思っております。ぜひ、あなたのご意見をお聞かせください。

私たちメンバーは、ほぼ全員が編集経験ゼロのおじさん達プラス女子数名で、通常業務のかたわら、皆で考え、悩み、締切が近づくと青くなる悪戦苦闘の毎日です。発刊の目的は「営農にかかわる」さまざまな情報、各産地や消費地での取り組み、もちろん営農技術も含めて分かりやすくお伝えすること、これを基に関係部門のみんなと作り上げたいと思っています。なにより、忙しい農作業の間でも手に取ってもらい一つでも二つでも営農の参考になれば、そんな思いでスタートしました。さて創刊号は？今から思えば作り手の想いが強すぎて、なんだかぎこちない誌面になったかと思っています。素人集団ですが早く慣れて役に立つ親しみやすい誌面を目指します。また、創刊号では皆さんからたくさんの方の声をいただきました。本当にありがとうございます。作り手にとって皆さんからの声が大切な「道しるべ」になります。この先ずっと「読者の声」をたくさん盛り込み、なるべく早く「あの冊子、いいよね」と言われるよう、しっかりと励みます。（M・S）

